



思い悩んだ学生時代 その先に見つけた自分の居場所

大学の研究室では「協同組合論」を研究していた。消費者の協同組合である「生活協同組合」がどんな仕事をしているのか興味があった。協同組合は、人ととのつながりである「組織体」と、購買活動を運営する「事業体」の両輪がある組織。そんな協同組合への興味とは裏腹に、就活では公務員を志望し抗った20代。なかなか芽が出ず、そろそろ見切りをつけようと考えはじめた先に、コープみやざきとの出会いが待っていた。

「生活はどうしているの?」面接で初めにかけられた言葉。お弁当屋のアルバイトで生活していた身には、優しいひとことが深く沁みた。「拾ってもらえた」この思いを抱いた29歳の晩秋、専任職としてコープみやざきで働く覚悟を決めた。

配属は共同購入。組合員さんにトラックで商品を届ける仕事は楽しかった。すべての組合員さんが暮らしの要望を生協に伝えられる「わが家の声カード」の取り組みがあった。声カードに記入するのが面倒とおっしゃる組合員さんには「協同組合は組合員さんがオーナーなんです。チャンスだから思いを伝えましょう!」と話して回った。協同組合の事業に参加していることが実感でき、楽しくてしょうがなかった。

配送基地の支所も、職員同士が何でも言い合えるアットホームな雰囲気。学生時代に携わったラグビーやアメフトのチームメイトのような雰囲気が心地いい。居場所を見つけた気がした。

「コーポミやざきに就職し、共同購入の配達に携わってから一年と半年が過ぎた頃、コーポミやざきの情報処理を担うCMS（コーポミやざきシステムズ）へ異動になった。

CMSの仕事は、コーポミやざきの事業を情報システムの力で下支えする重要な部分を担う。大量の情報を正確に処理することが求められ、ミスは多くの組合員さんはもちろん、事業に関わる職員への迷惑に直結する。緊張感がありながらも、事業の陰に立役者の役割に醍醐味を感じずにはいられなかつた。

誕生日には、CMSのみんなが歌や演奏で祝い合つたり、年末にはカレーの炊き出しもあって、一年の労をみんなでねぎらう。ここにも、共同購入の支所で感じたアットホームな雰囲気があつた。そして、厳しい中にも「面白おかしく仕事をせえ」というCMS社長の口ぐせ。仕事で失敗しても、いつも仲間が助けてくれる。そんな優しさに甘えていたのは、クリスマスケーキの大トラブルだつた。

自分のミスで多くの組合員さんに迷惑をかけ、支所や物流で働く仲間に修復のための大きな負担をかけてしまつた。「そういうこともある」いつもは厳しい社長からかけられた一言が、またも心に深く沁みた。自分のいい加減さに嫌気がさして泣いた。

物流システムのコントロール業務では、いろんなトラブルがあつても逃げずに向き合つてきたつもり。そんな積み重ねが、「配達担当者別に冷蔵品を集品するシステム」や「組合員さんの個別宅配品を注文に応じて箱詰めするシステム」を稼働させることにつながり、大きな自信になつた。

CMSに配属されて16年。一人で成長してきたわけじゃない。「一人はみんなのために、みんなは一人のために」チームスポーツをしてきて心にある言葉。仕事もいろんな役割が一人ひとりにあるけれど、目指すべきものは一つ。自分が役割を果たして、他の一人ひとりも役割を果たせば目標達成にたどり着けるチームプレーのようなもの。そこはこれからも大事にしていきたい。

「コーポミやざきの情報システムに携わつて17年目の春。物流部の責任者として辞令をいただいた。「こんな自分でいいのだろうか?」そんな言葉が頭をよぎつたとき、就職 당시に感じた「拾つてもらえた」という思いが蘇つた。

「自分の役割で、一緒に働く仲間を助けたい」この思いはこれからも変わらない。ネガティブな思考からは何も生まれない。「ポジティブに」そうすることで仕事も楽しくなる。どうしても仕事をしたいと思えなかつた学生時代。叶うなら、あの時の自分に伝えてあげたい。「迷わず行けよ!夢中になれる方へ!」と。



Nobuyuki Mizoguchi

ポジティブに そして 一人はみんなのために みんなは一人のために